



津小だより

〒959-4402 阿賀町津川3234

R6.2.1 No.12

みんなのやさしさで、たくさんの花を咲かせよう！

校長 高松 豊

2月の全校朝会では、絵本『花さき山』(斎藤隆介：作) の読み聞かせをしました。『花さき山』は、人に対する思いやりや優しさで花が咲くという美しい物語です。大変な思いをされている能登半島にも、たくさんの花が咲いてほしいという願いを込めて話しました。

おどろくんでない。おらはこの山に一人で住んでいるばばだ。山ンばという者もおる。山ンばは、悪さをするという者もおるが、それは嘘だ。おらは何にもしない。

あや。おまえはたった十のonaゴわらしだども、しっかりもんだから、おらなんど、おっかなくはねえべ。ああ、おらは、何でも知ってる。お前の名前も、お前がなしてこんな奥まで登って来たかも。もうじき祭りで、祭りのごつおうの煮しめの山菜を取りに来たんだべ。ふき、わらび、みず、ぜんまい。あいつをあぶらげといっしょに煮るとうめえからなア。ところがお前、来すぎて、道に迷ってこの山さ入ってしまった。したらば、ここにこんなに一面の花。今まで見たこともねえ花が咲いているので、ドデンしてるんだべ。な、あたったべ。

この花が、なしてこんなにきれいだか、なしてこうして咲くのだが、そのわけを、あや、おめえはしらねえべ。それはこうしたわけだしゃ・・・。この花は、ふもとの村の人間が、やさしいことを一つすると一つ咲く。あや、お前の足下に咲いている赤い花、それはお前が昨日咲かせた花だ。昨日、妹のそよが、「おらサも、みんなのように祭りの赤いベベかってけれ」と、足をドデバタして泣いておっかあを困らせたとき、お前は言ったべ、「おっかあ おらは、いらねえからそよさ、買ってやれ」そういったとき、その花が咲いた。お前は家が貧乏で、二人に祭り着を買ってもらえたことを知っていたから、自分は辛抱した。おっかあは、どんなに助かったか！そよはどんなに喜んだか！お前はせつなかつたべ。だども、この赤い花が咲いた。この赤い花は、どんな祭り着の花模様よりもきれいだべ。ここの花は、みんなこうして咲く。

あやは、山から帰って、おどうやおっかあや、みんなに山ンばから聞いたこの話をした。しかし、だアレも笑って本当にしなかった。「山サいって、夢でも見て來たんだべ」「きつねにばかされたんでねえか。そんな山や花は見たこともねえ」みんなそう言った。そこであやは、また一人山へ行ってみた。しかし、こんどは山ンばには会わなかったし、あの花も見なかったし、花さき山も、見つからなかった。けれどもあやは、その後ときどき、「あっ！いま花さき山で、おらの花が咲いてるな」って思うことがあった。



「この花は、ふもとの村の人間が、やさしいことを一つすると一つ咲く。」そう山ンばが言っていたね。少し前、1月の寒い朝に校長先生とスクールガードリーダーの方が学校の門の前で、



「おはよう」とあいさつをしていたら、ある男の子が、「校長先生、1年生の〇〇さんが、転んで泣いているよ」と教えてくれました。心配していると、高学年の女子が半べそをかいている女の子の手をしっかりと握って一緒に歩いてきました。その時に、校長先生は、やさしい高学年のおかげで、花さき山にきれいな花が一つ咲いたなと思いました。(裏面につづく)

お正月に起きた能登半島地震では、今でも多くの人たちがつらい思いをしています。壊れた家もたくさんあります。被災地の皆さんには全国からあたたかい支援がたくさん寄せられています。阿賀町からも消防署の方や役場の方が被災地で救援のお仕事をがんばったそうです。だからきっと被災地の花さき山には、たくさんの花が咲いているのではないでしょうか。全校の皆さんも、思いやりや優しさで、阿賀町の花さき山にたくさんの花を咲かせましょう。



ふるさと阿賀町が、やさしさの花でいっぱいになることを願っています。

野球しようぜ！<大谷選手のグローブについて>



メジャーリーガー、大谷翔平です。この3つのグローブは学校への寄付となります。私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。野球しようぜ。

大谷選手がプレゼントしてくれたグローブの使い方が決まりました。6年生から順番に一週間交替で使います。グラウンドや体育館ギャラリーでキャッチボールを楽しみます。

うれしいお便りをいただきました。ありがとうございます。

3学期が始まってすぐの頃、右のようなお葉書をいただきました。冬休み前の「津小だより」10号～阿賀町には、おいしい湧き水がたくさんあります！～を読んでくださった地域の方からのお葉書です。戊辰戦争で傷ついた兵士を癒やしてくれた「活清水」のお話は、当時の歴史に触れることができ、大変感銘を受けました。



貴重な情報をいたいたので、あかね清水を探しに行ったのですが、見つかりません。地元の方にうかがったら、

前略
「津小だより」何時も拝読しております。今回の湧き水ですが、ハツ田の「活清水」戊辰戦争で傷ついた兵士がその水を飲んで元気を取り戻したと亡き母から聞いた説です。
後・旧国道 ハ木山～福取の丁度中程に「あかね清水」という沢清水もあります。皆さんのおじいちゃん・おばあちゃんに聞いたたらもっと湧き水の数は増えると思います。寒くなりました。
三学期も元気にお過ごしください。

「清水のことは聞いたことがあるが、旧国道は除雪していないからいけないよ。」とのこと。雪が溶けても、使っていない道だからいけるかどうかわからないそうです。「あかね清水」幻の名水のように思えて、ますます行ってみたくなりました。貴重な情報を寄せいただきありがとうございました。